

平成28年度第4回  
龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会

次 第

日時：平成29年1月27日（金）

午後2時から

場所：龍ヶ崎市役所

5階 第1委員会室

1 開会

2 議事

(1) (仮称)龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針の策定に向けて

(2) 龍ヶ崎市の小中連携の取り組みについて

(3) 龍ヶ崎市の新しい学校づくりに向けて

3 閉会

# (仮称) 龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針の策定に向けて

## 1 概要

教育委員会の諮問機関である、龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会での審議を踏まえ、適正配置及び小中一貫教育などを盛り込んだ、(仮称)龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針を策定する。

また、(仮称)龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針は、平成23年5月に策定した、龍ヶ崎市適正規模適正配置に関する基本方針を見直し、新たな基本方針として定める。

## 2 策定体制

- (1) 龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会(学識経験者、学校長、保護者など10名の委員で構成)
- (2) 総合教育会議(市長と教育委員会で構成)
- (3) 庁議(※基本方針の最終決定は庁議)
- (4) 教育委員会定例会

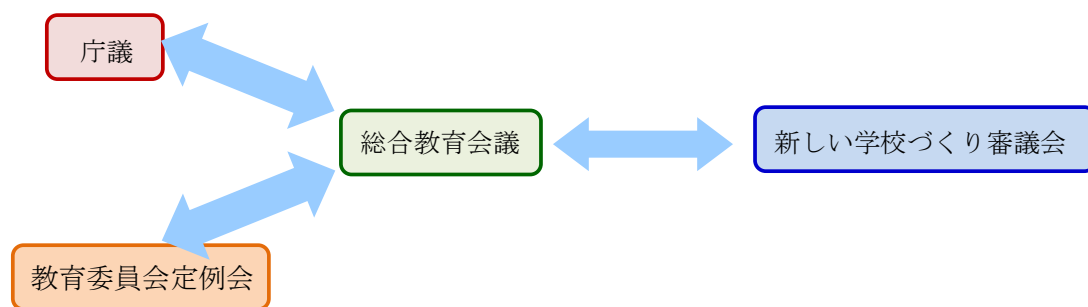
## 3. 策定の視点

- (1) 教育環境の充実(小中連携から小中一貫へ発展)
- (2) 市民(保護者)との情報共有(意見交換会・アンケート調査、パブリックコメント)
- (3) 適正規模適正配置(今後の少子化の進行を踏まえて)
- (4) 関連計画との整合
  - ①第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン【平成29年度～平成33年度(5年間)】
  - ②教育プラン(教育大綱・教育振興基本計画)【平成29年度～平成33年度(5年間)】
  - ③都市計画マスタープラン2017【平成29年度～平成38年度(10年間)】
  - ④公共施設等総合管理計画【平成27年度～平成63年度(37年間)】

## 4. (仮称) 龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針の概要

- ・平成30年3月に決定(予定)
- ・基本方針の計画期間は、平成30年度から平成39年度までの10年間を予定(5年後である平成34年度に中間見直し)
- ・龍ヶ崎市の子どもの理想像を明確化(カリキュラム(小中一貫教育)に関連)
- ・適正規模は、龍ヶ崎市適正規模適正配置に関する基本方針を踏襲(小学校は1学年2クラス以上、中学校は3クラス以上)
- ・適正配置は、将来的な児童生徒数の推移を踏まえた適正規模及び都市マスとの整合を図るほか、地域特性及び学校施設の老朽化の観点から明記

#### 4. 策定フロー



※協議内容・事項によってはこの限りではない

#### 5. 策定スケジュール (平成 28 年度含む)

年月日	内 容
平成 28 年 7 月 6 日	平成 28 年度第 1 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 新しい学校づくり審議会について (2) 市立小中学校の現状について (3) その他 ※小中一貫教育の展開 (筑波大学・樋口教授から講話)
7 月 27 日	平成 28 年度第 2 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 第 1 回審議会について (報告)
9 月 5 日	平成 28 年度第 2 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 龍ヶ崎市の子ども達の現状について ①児童生徒の体力面について ②児童生徒の生活面について ③児童生徒の学力及び学習状況面について (2) 子ども達にとって望ましい学校教育について
10 月 26 日	平成 28 年度第 3 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 第 2 回審議会について (報告)
11 月 8 日	平成 28 年度第 3 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 9 年間を通じた小中一貫教育の必要性 ① (仮称) 龍ヶ崎市教育プランについて ②龍ヶ崎教育市民会議での意見交換について ③龍ヶ崎市の児童生徒の現状のまとめについて (2) 龍ヶ崎市の教育に期待すること
11 月 16 日	平成 28 年度第 3 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 第 3 回審議会について (報告)
12 月 21 日	教育委員会定例会 (1) 策定方針 (案) について
平成 29 年 1 月 10 日	定例庁議 (1) 策定方針 (案) について
1 月 27 日	平成 28 年度第 4 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 策定方針について (2)
2 月 15 日	平成 28 年度 5 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 策定方針について (2) 第 4 回審議会について (報告)
2 月	平成 28 年度第 5 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 中間まとめ

現時点

年月日	内 容
平成 29 年 4 月	平成 29 年度 1 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1)
5 月	定例庁議 (1) 龍ヶ崎市が目指す子ども像について (2) 小中一貫教育について 平成 29 年度 2 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 龍ヶ崎市が目指す子ども像について (2) 小中一貫教育について
6 月	平成 29 年度第 1 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 委嘱状の交付（人事異動・役職の変更など） (2) 龍ヶ崎市が目指す子ども像について (3) 小中一貫教育について
7 月	平成 29 年度第 2 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 基本方針（素案）について 平成 29 年度 3 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1)
8 月	平成 29 年度第 3 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 基本方針（案）について
10 月	定例庁議 (1) 基本方針（案）について 平成 29 年度 4 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 基本方針（案）について
11 月	平成 29 年度第 4 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 基本方針（案）について 定例庁議 (1) 基本方針（案）について
12 月	パブリックコメント（～1月まで）
平成 30 年 2 月	定例庁議 (1) パブリックコメントで寄せられた意見に対する市の考え
2 月	平成 29 年度第 5 回龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会 (1) 答申 教育委員会定例会 (1) 基本方針（案）について 平成 29 年度 5 回龍ヶ崎市総合教育会議 (1) 基本方針（案）について
3 月	臨時庁議 (1) 基本方針の決定

## 現状整理 (市の今後の政策について ～関連計画から教育分野を抜粋～ )

**最上位計画**

計画名：第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン  
 策定年月：平成28年12月  
 計画期間：平成29年度～平成33年度（5年間）  
 計画の概要：本市の最上位計画として位置づけ、5つの戦略と13の目標を設定（目標のうち4つを重点目標として設定）  
 将来都市像：人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎

(5つの戦略)

- 戦略1 若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」
- 戦略2 教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
- 戦略3 地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
- 戦略4 地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
- 戦略5 持続可能な行財政運営「将来につながる基盤づくり」

(4つの重点目標)

- 目標1 子育て環境日本一
- 目標4 龍の子の生きる力を育むまちづくり
- 目標5 子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり
- 目標6 生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり
- 目標7 市民活動日本一
- 目標10 防災・減災日本一
- 目標12 スポーツ健幸日本一

教育分野	都市計画・まちづくり	公共施設全般	地方創生
計画名：龍ヶ崎市教育プラン 策定年月：平成28年度末（予定） 計画期間：平成29年度～平成33年度（5年間） 計画の概要：本市の教育分野のマスタープランとして位置づけ、教育大綱と教育振興基本計画で構成される。 基本理念：ふるさと龍ヶ崎の 現在を担い 未来を拓く 人づくり	計画名：龍ヶ崎市都市計画マスタープラン2017 策定年月：平成28年度末（予定） 計画期間：平成29年度～平成38年度（10年間） 計画の概要：将来に向けた望ましいまちの姿やまちづくりの方針を共有するためのビジョンであり、全体構想と地域別構想で構成される。	計画名：龍ヶ崎市公共施設等総合管理計画 策定年月：平成28年3月 計画期間：平成28年度～平成63年度（37年間） 計画の概要：公共施設等の全体最適化と持続可能な財政運営を両立するため、公共施設とインフラの今後の管理方針を示している。 コンセプト：次世代へ繋ぐために～ 公共施設等の新しいカタチを創る～	計画名：龍ヶ崎市人口ビジョン／龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定年月：平成27年12月 計画期間：平成27年度～平成31年度（5年間） 計画の概要：地方創生に向けた取組を推進し、少子高齢化・人口減少社会に対応するため、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策などを示している。

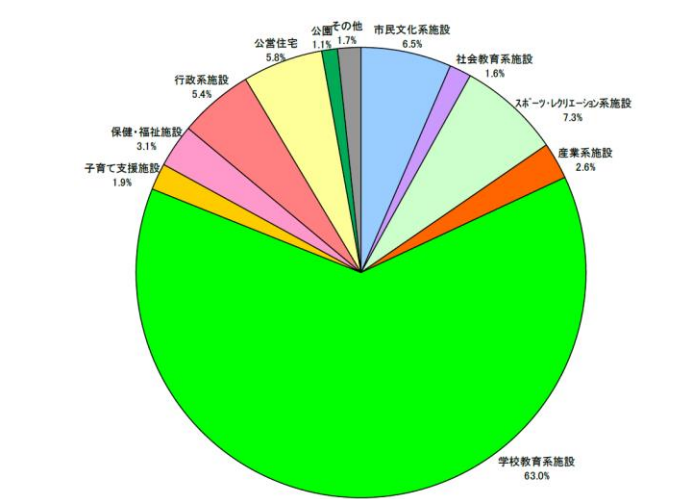
義務教育の基本方針は、「一人ひとりの夢や希望を育み、生きる力が身につく教育の推進」と設定

※詳細は、第3回審議会資料参照



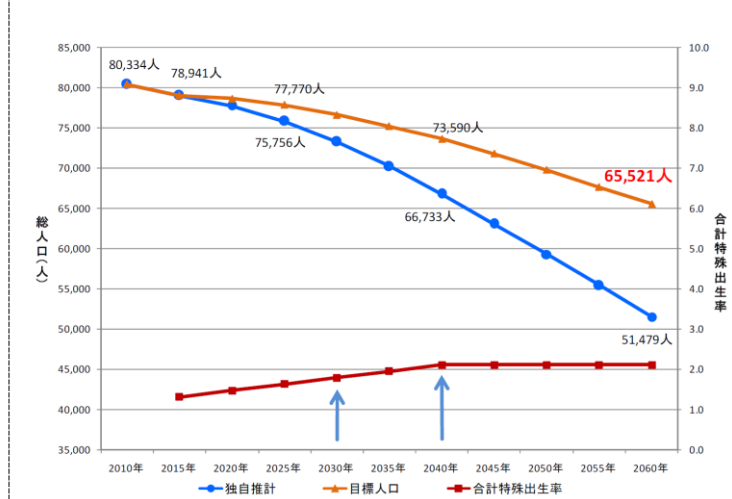
将来的には龍ヶ崎市を4つの市街地で整理したまちづくりを進める

小中学校の適正配置に関連



計画期間内に公共施設の延べ床面積の3割削減を目標としており、教育施設は全体の6割を占める

学校施設の老朽化・小中学校の適正配置に関連



本市の2060年の将来推計の人口が51,479人に対し、地方創生の取組により65,600人を目標とする

児童生徒数の減少・適正規模に関連

各種計画の計画期間

	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49	H50	H51	H52	H53	H54	H55	H56	H57	H58	H59	H60	H61	H62	H63	H64		
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052		
第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン																																								
龍ヶ崎市教育プラン																																								
龍ヶ崎市都市計画マスタープラン2017																																								
龍ヶ崎市公共施設等総合管理計画																																								
龍ヶ崎市人口ビジョン／龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略																																								

(仮称) 龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針の計画期間

# 龍ヶ崎市の目指す子ども像の概念図(たたき台)

龍ヶ崎市教育大綱 (基本理念)

ふるさと龍ヶ崎の 現在(いま)を担い、未来(あす)を拓く 人づくり

龍ヶ崎市教育大綱 (基本方針)

一人ひとりの夢や希望を育み、生きる力が身につく教育の推進

## 龍ヶ崎市の目指す子ども像

● ふるさと龍ヶ崎を愛し、郷土を誇りに思う子ども

● 自己表現し、コミュニケーションのできる子ども

● 自分に誇りを持ち、自ら学び考える子ども

● 健全な心身を持ち、共に働き助け合い、地域を支える子ども

## 小中一貫教育の推進

知

### 主体的な学習の推進

- 基礎的な学力の定着
- 自主的主体的学習の推進
- コミュニケーション能力の向上

- 地域の人材を活用した学習の推進

徳

### 思いやりと規範意識の育成

- 自尊感情の高揚
- 感謝の心、思いやる心の育成
- シティズンシップ教育の充実

- 地域資源を活用した体験学習・キャリア教育の充実
- 地域交流事業の推進

体

### 主体的運動の日常化

- 体力づくりの推進
- 運動の習慣化の推進

- 龍流連携事業を利用した大学と連携した体力づくりの推進
- 地域の人材を活用した体力づくりの推進

## 地域社会への貢献

- 自助・共助の心の育成と実践  
(防災・減災教育の推進、地域合同防災訓練への参加など)

- 体験学習の推進 (農業体験など)
- 地域イベントや地域ボランティア事業への主体的参加の推進



新しい学校づくりに関する現状と課題・意見・目指す姿の実現に向けての手法

		現状と課題	審議会での意見	目指す姿の実現に向けての手法（案）
社会現象		<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化による児童生徒数の減少</li> <li>・情報通信技術（ICT）の発達（情報モラルや情報活用能力の向上）</li> <li>・社会経済のグローバル化（語学力・コミュニケーション能力の向上，郷土の伝統文化等に関する知識の習得）</li> <li>・障害者差別解消法の施行（インクルーシブ教育の推進）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り子ども達が減らないような施策を考えていただきたい（<a href="#">斉藤委員</a>）</li> </ul>	
学習面	知（確かな学力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の改訂により，平成32年度より小学校で英語が教科化，英語教育の早期化</li> <li>・学力において，小学校で4分野とも全国より低い傾向【全国学力・学習状況調査】</li> <li>・中学生，特に女子で「授業がよくわからなかった」が増加傾向【全国学力・学習状況調査】</li> <li>・「勉強が好き」と回答する児童生徒が全国平均より少ない傾向【全国学力・学習状況調査】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくばスタイル科に興味があり，小中学校でも自分の考えを発言し，議論するような機会が多くなった方がよい（<a href="#">横田委員</a>）</li> <li>・小中一貫教育を実際に進めるうえで，カリキュラムをどのように編成するのが鍵であることを伺い，大変参考になった。小中一貫教育の背景には，子ども達が抱える課題の解決と子ども達の実力の開発の2つの面がある（<a href="#">今橋副会長</a>）</li> <li>・言語活動の充実は，各学校が指導のあり方をもっと考えていくべきであり，教育委員会も各学校に改善を求めるべき（<a href="#">今橋副会長</a>）</li> <li>・子ども達同士（または市内の同級生）の研修会やグループディスカッションを行い，積極的に発言できる機会を創出し，コミュニケーション能力の向上をしてほしい（<a href="#">伊藤委員</a>）</li> <li>・子ども達が主体的に企画運営に関わる体験活動を推進してほしい（<a href="#">伊藤委員</a>）</li> <li>・学力向上のために，教員は指導力を磨かなければならないと考えており，各学校で目標や対策を協議しながら進めている（<a href="#">根本委員</a>）</li> <li>・学力向上のためには，カリキュラムの統一など，教員ができることを進めていきたい（<a href="#">佐藤（忠）委員</a>）</li> <li>・学びの広場サポート事業では，算数・数学だけでなく，他の教科も実施してほしい（<a href="#">大川委員</a>）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を活用した学習の推進</li> </ul>
	徳（豊かな心）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の改訂により，平成32年度より道徳が教科化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年の熊本地震の際には生徒会が自発的に募金活動を始めるなど，東日本大震災を契機に，自分達ができることをやろうという気持ちが育っている（<a href="#">根本委員</a>）</li> <li>・伝統芸能なども取り入れて，子ども達の思い出に残る教育をしてほしい（<a href="#">飯島委員</a>）</li> <li>・龍ヶ崎に関心を持ち，龍ヶ崎を住みやすいと感じ，好きになる子どもを育てて欲しい（<a href="#">飯島委員</a>）</li> <li>・郷土に対する愛情を高める教育が必要（<a href="#">佐藤（忠）委員</a>）</li> <li>・シティズンシップ教育を充実してほしい（<a href="#">今橋副会長</a>）</li> <li>・子ども達が感謝の気持ちを持ち，感謝の言葉が自然に出る大人になってほしい（<a href="#">佐藤（由）委員</a>）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した体験学習・キャリア教育の充実</li> <li>・地域交流事業の推進</li> </ul>
	体（健康な体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に所属する生徒の減少，部活動の選択幅の減少</li> <li>・ボール投げが苦手な傾向</li> <li>・スポーツの技術はあるが，体力に結びついていない</li> <li>・運動系の部活に入る生徒が減少</li> <li>・部活動で外部指導者を活用しているが，管理面で教員の負担が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通経済大学と連携したり，外部指導者を入れることにより，部活動の活性化にできるだけのことをしてほしい（<a href="#">飯島委員</a>）</li> <li>・部活動の選択肢を，生徒や保護者が持っているのもよいのではないか（<a href="#">伊藤委員</a>）</li> <li>・部活動を理由に指定校変更する生徒も増えてくるのではないか（<a href="#">樋口会長</a>）</li> <li>・流通経済大学に良い指導者がたくさんいるので，スポーツを活発にしてはどうか。部活動は指導者やメンバーが変わってしまい，チームでのレベルアップが難しい（<a href="#">飯島委員</a>）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・龍流連携事業を利用した大学と連携した体力づくりの推進</li> <li>・部活動への地域人材による外部指導者の活用</li> </ul>
生活面		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生，特に女子で「いらいらする」（ストレス）が増加傾向【全国学力・学習状況調査】</li> <li>・中学生で「家の人で成績や勉強のことをうるさく言った」（家庭でのストレス）が増加傾向【全国学力・学習状況調査】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の自尊感情が低い傾向【全国学力・学習状況調査】があり，自己肯定感を高めていく必要がある（<a href="#">今橋副会長</a>）</li> <li>・環境の変化を乗り越えるために，人間関係を学び，コミュニケーション能力の向上が重要（<a href="#">伊藤委員</a>）</li> </ul>	
施設・環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の老朽化が進んでいる</li> <li>・児童生徒数が毎年約150人減少し，今後も150～2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛宕中学校は生徒数が少ない割には多くの小学校から生徒が通っているので，中1ギャップの要因になりやすいのではないか（<a href="#">横田委員</a>）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の学区変更</li> </ul>

	現状と課題	審議会での意見	目指す姿の実現に向けての手法（案）
	<p>00人ずつ減少していく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年後には適正規模に満たない学校が、小学校7校、中学校3校になることが見込まれ、単学級・複式学級が増加する</li> <li>学区により、1つの小学校から2つの中学校に分かれる学区がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの小学校と1つの中学校からなっている学区は、不登校率が多い地域と少ない地域に開きがあるが、複数の小学校から集まってくる学区では、不登校率には開きがない状況。また、施設一体型の小中学校の不登校率は低い傾向がある（今橋副会長）</li> <li>児童生徒数が減る中で、小中学校の統合が課題となっており、施設一体型の学校の設置は子ども達や保護者にとって、新しい教育への期待を持てる面がある（今橋副会長）</li> <li>龍ヶ崎西小学校の児童は、新しい友達ができることやさまざまな経験ができるということで、北文間小学校との統合を喜んでいる。この子ども達の思いを大切にしたい（佐藤（忠）委員）</li> <li>学区により、同じ中学に通う児童が少ない小学校もあり、中1ギャップが心配（伊藤委員）</li> <li>中1ギャップという言葉を知らない子どももいる（佐藤（由）委員）</li> <li>小中一貫教育では、6年生が最高学年であることの緊張感がなくなってしまうという懸念がある（樋口会長）</li> <li>子ども達の教育環境をどのように整えるのかは大人が責任を持って考えていかなければならない（横田委員）</li> <li>1つの小学校区が2つの中学校区からなっている地区では、現状のまま小中一貫教育を行う際、日程調整などが難しい（樋口会長）</li> </ul>	
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの小学校において、学校と地域が連携した防災訓練を学校行事として実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の自己肯定感をどのように高めていくのかは学校だけでなく、地域全体で考える課題である（今橋副会長）</li> <li>子ども達が自分に誇りを持てるような教育を目指していけるよう、地域として応援したい（斉藤委員）</li> <li>地域の方が子ども達の見守りをしながら育てていく環境づくりが一番龍ヶ崎らしい（飯島委員）</li> <li>地域との連携はとても大切（伊藤委員）</li> <li>得意なところを伸ばして欲しいし、得意なところを見つけてあげられるように、学校や地域が協力していくのがよい（伊藤委員）</li> <li>三鷹市では単に小中一貫教育という発想だけではなく、コミュニティ・スクールの発想も含めた小中一貫教育が進められており、そのような部分で成果が出ていると感じたが、コミュニティ・スクールに対する考え方について、伺っていきたい（今橋副会長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災・減災教育の推進</li> <li>地域事業への主体的参加の推進（児童生徒の地域イベントへのスタッフ参加など）</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習（特に宿題）がしっかりできていない傾向【全国学力・学習状況調査】</li> <li>携帯電話、メール、インターネット、ゲームに時間を費やす児童生徒が、全国平均より多い傾向【全国学力・学習状況調査】</li> <li>児童数の減少に反して、学童保育ルームの利用者は増加傾向にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達がゲームやスマホをやり、家庭学習を進めておらず、自分で課題を見つけて実施する自主学習ができていないのではないかと（横田委員）</li> <li>家庭学習の定着は、各家庭での意識や習慣が大切（根本委員）</li> <li>塾に通う児童生徒が増加し、家庭学習がなかなかできない（根本委員）</li> <li>ゲームやスマホを長時間使用する児童生徒が増加しており、実態を保護者に伝えて、家庭でのルールづくりなど、改善をお願いする取り組みが必要（今橋副会長・飯島委員）</li> <li>ゲームやスマホについて、教員が子ども達に注意喚起しても、子ども達は正面から受け取らないのが現状（根本委員）</li> <li>子ども達のストレスの原因が、勉強に次いで家庭が2位になっていることに驚いた（大川委員）</li> </ul>	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>龍ヶ崎の特色を出してほしい（斉藤委員・飯島委員）</li> <li>地域によって保護者や地域の考え方が違うので、地域の特性を考慮してほしい（今橋副会長・根本委員）</li> <li>小学校同士・中学校同士の連携が重要（伊藤委員）</li> <li>保護者が日頃抱えている課題についての意見聴取が必要（飯島委員・横田委員）</li> </ul>	